

2025年4月24日

内閣府消費者委員会

委員長 鹿野菜穂子 様

カナリア・ネットワーク全国

共同代表 青山和子

深谷桂子

### 柔軟剤・合成洗剤等へのマイクロカプセル類不使用を求める意見書

貴委員会におかれましては、日頃より、消費者行政に関してご尽力いただき、有り難く存じます。

私共は、柔軟剤・合成洗剤・除菌消臭スプレー等の日用品に含まれる、香料や消臭成分等の化学物質による空気汚染をきっかけに引き起こされる健康被害、「香害」を受けている当事者を中心にして、2021年に発足した団体、カナリア・ネットワーク全国と申します（2025年4月現在、会員数約910人）。被害実態を世に広め、被害者と支援者のネットワークを作り、被害者が置かれている様々な人権侵害の現状について解決を求めて行くことを目的としております。（注1）

香害被害は、片頭痛・喘息・化学物質過敏症の患者、発達障がい感覚過敏者、抗がん剤治療者、妊婦等が受けやすく、頭痛、咳き込み、吐き気、意識障害、不整脈などの症状が出ることがあります。

2020年に市民団体「香害をなくす連絡会」が行った「香害アンケート」によれば、香害被害者約7000名のうち、18.7%もの人々が通学・就労に支障があるという深刻な被害実態が浮かび上がりました。（注2）学校における香害の実態調査を行った自治体によれば、児童生徒の約10%が香害被害を受けた経験があることがわかります。（注3）香害がきっかけで化学物質過敏症状を訴える人も増加しています。（注4）

「香害」に関しては、国民生活センターが二度の情報提供を行い、使用上の注意のラベル掲載、香りの強さ表示、HPでの香料成分開示がなされました。また、2021年には、消費者庁が5省庁連名で、香りへの配慮を求める啓発ポスターを作成しました。しかし、その後も香害被害の声は増え続けています。消費者に使用法の啓発を行うだけでは、香害対応には限界があります。

現在、家庭における洗濯では8～9割の人が柔軟剤を使用しているという調査があり、あらゆる場所の空気質が柔軟剤等の成分で汚染されています。そのため、公共交通機関が使えない、公的施設・金融機関・病院・店舗に入れず、日常生活が制限され、人権侵害の状況に置かれている香害被害者が沢山います。近隣の住宅の洗濯物から化学物質が漂うため、窓も開けられず、自宅ですら安心して過ごせる場所ではありません。

このような事態を招いている大きな要因の一つに徐放技術があります。今の合成洗剤や柔軟剤には、香料や消臭成分を詰めたプラスチック製のマイクロカプセルという微粒子が配合されています。洗濯で衣類に付いたカプセルは、着用すると摩擦や温度上昇などによって次々と時間差で壊れます。そのたびに中の化学成分が放出され、香りや消臭効果が持続する仕組みになっています。そのため、周囲の人々は繰り返し長期間、化学物質にさらされることになり、健康被害を増大させていると考えられています。

2023年8月末に貴委員会に提出した「移香実証実験の情報提供及び要望書」内にも記載しましたが、「移香(いこう)」と呼ばれる現象での被害も深刻です。

カプセルが衣類から飛散、あるいは衣類との接触などによって周囲の物に再付着することで、移香が引き起こされます。再付着した場所でも化学物質が放出され、空気汚染をするため、二次的な健康被害を受けます。

食品を含め店頭の商品、図書館の書籍、紙幣などあらゆる物に柔軟剤などに含まれるマイクロカプセルが付着しています。購入した商品にカプセルが付着し汚損されていたため、使用できず、金銭的な被害が出る場合があります。外出すれば、自分や家族の服や髪に移香します。他者が使用した当該製品の香料や消臭成分等が帰宅時に自宅内に持ち込まれてしまうことで、体調不良に陥るといふ、理不尽極まりない事態です。

洗濯で衣類に付着させるために、マイクロカプセルには強い接着性があります。再付着した衣類からでも通常の洗濯では落とすことが出来ません。移香した衣類と自分の衣類を一緒に洗濯すると、自分の衣類にまで再移香して着用できなくなるため、別々に洗濯をせざるを得ません。他者の使用した製品の香料等の化学物質のために、連日、頭痛や吐き気などを起こしながら、何度も漬け置き洗いやお湯洗いを繰り返したり、何日もの天日干しを強いられたいしています。それでも移香が落ちず、衣類を廃棄せざるを得ないことがあります。健康被害だけでなく、膨大な時間と労力、水道・光熱費の負担、所有物の損失まで強いられているのです。

更なる問題があります。マイクロカプセルは大気中に浮遊し、洗濯排水と共に河川や海に流出、環境汚染もしています。食品内部から香料を感じる、水道水に香料を感じる、海産物に香料を感じるという声があります。香料製品使用者は嗅覚疲労を起こしているため、まだ大多数はこの深刻な現実には気づいていません。前述のようにマイクロカプセルはマイクロプラスチックです。マイクロプラスチックの人体への悪影響を示す研究報告が出始めています。

私共は他団体と共に「STOP! マイクロカプセル香害」という署名活動を行い、2024年1月に業界に対して署名を提出しました。しかし、業界側は対応せず、面会すら実現していません。(注5) 香害被害者たちは、香害に関連する政府のパブリックコメントにも積極的に意見を提出しています。2025年1月には、「第5期消費者基本計画(素案)」に香害への対応を盛り込むよう、1109項目もの意見がパブリックコメントに寄せられました。ところが、消費者庁は、計画案の記載に直接関わるもの以外で多く寄せられた意見として、公表資料の後ろから二枚目に数項目だけをまとめて公表するに留まりました。素案に漏れているから加筆して欲しいという多くの香害被害者の声を消費者庁が埋もれさせたことは遺憾です。厚生労働省のパブリックコメントでは、香害関連の意見を全部公表しています。

香害による健康被害・環境汚染を止めることは喫緊の課題です。消費者庁には、周知啓発から一歩進めた対応として、まずは、下記一点について、早急の取り組みを求め、意見書を提出する次第です。

## 記

1. 消費者庁は、他省庁と連携協力して、マイクロカプセル類による徐放技術を柔軟剤・合成洗剤等の家庭用品に使用しないよう、業界を指導すること。

以上

<注1> カナリア・ネットワーク全国ホームページ「カナリアたちの声」参照。



<注2> 「香害アンケート集約結果発表～9000人の声を届けます」



<注3> 兵庫県宝塚市「市立小学校・中学校における香害及び化学物質過敏症に関するアンケート結果」



北海道厚岸町「『香害』及び『化学物質過敏症』に関する実態調査結果報告書」



<注 4> 厚生労働科学研究「種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明と患者ケアの向上を目指した複数疾患領域統合多施設共同疫学研究」代表者：獨協医科大学 小橋元（令和4年度）



分担研究報告書「化学物質過敏症候群患者の中枢感作検証」千葉大学 坂部貢



<注 5> change.org. 『<STOP!マイクロカプセル香害>メーカーは「マイクロカプセル香料」などの「長続き」製法をやめてください!』署名サイト



<問い合わせ先：カナリア・ネットワーク全国>

<https://canary-network.org/member/contact/>

